

# まちづくり瓦版

～うつくしま、まちづくり推進レポート～

Vol.68 令和2年3月31日発行

## 奥会津地域 インフラ施設の 観光資源化調査

奥会津地域は、道路整備、河川改修、JR只見線復旧等の大規模なインフラ整備が進行中で、国策としての電源開発に次ぐ規模の事業が展開されているとともに、発電ダム等の歴史的な土木構造物も多い地域です。

人口減少や過疎化が進行する奥会津地域の活性化対策として、JR只見線全線再開通と連携してインフラ施設を観光資源として活用するための調査を実施しました。

### 【実施日】

令和2年3月4日（水）

### 【場 所】

三島町、金山町

### 【内 容】

学識者や学生の立場から、日常では見ることのできない施工中の工事現場、立ち入ることのできないダム施設内部、JR只見線沿線のビューポイント等の見学及び現場体験を通し、観光資源としての特性を調査、移動行程等の確認を行いました。

調査後は、参加者にアンケートを実施し、美しさや技術力等の指標に対する評価や感想をいただきました。

### 【参加者】

会津大学短期大学部（学生及び准教授）計5名

福島県担当者 計5名

## 【主な調査箇所】

- ①本名トンネル（金山町）
- ②本名ダム（金山町）
- ③只見線第一橋梁ビューポイント（三島町）
- ④第二沼沢発電所（金山町）



### ①本名トンネル（金山町）

福島県大沼郡金山町大字本名～越川地内の現道国道252号は、道路幅員が狭く、線形が悪いため交通の支障となっていることから、本名トンネル1,429mを含めたバイパス化を図り、安全かつ円滑な交通を確保することを目的に行われています。



▲現場見学の前に、工事の概要等について安藤ハザマ・滝谷JVの工事担当者の方から説明をしていただきました。



掘削作業が完了し、舗装や照明工事が行われる前のトンネル内を見学しました。



#### 👉 アンケート結果 👈

- ・実際にトンネルの中を歩くことはこれからはないと思うので良かった。
- ・徒歩でトンネルへ入ったのは初めてだったので迫力があつた。
- ・山の中を通っているダイナミックさを感じた。

#### ② 本名ダム（金山町）

本名ダムが設置されている只見川は、阿賀川水系最大の支川であり、国内でも屈指の大河川です。

本名ダムは只見川の中流域に位置し、昭和29年に発電のために建設されたもので、ダムの長さ200.0m、高さ51.5mの重力式越流型コンクリートダムで、4門の洪水吐ゲートを有しています。

ダム以外にも、平成23年7月の新潟福島豪雨被害についても説明を受けました。



#### 👉 アンケート結果 👈

- ・放水など自然の力を合わせるととても迫力があるように感じた。
- ・歴史があるダムで、周辺地域との関わりが興味深かった。
- ・災害の恐ろしさを知ることができた。

### ③只見線第一橋梁ビューポイント（三島町）

道の駅尾瀬街道みしま宿の近くにある展望台から、只見線第一橋梁を走る列車を見学しました。



▶列車通過時刻表があるので、通過の時刻に合わせて撮影することができます。



▲タイミングが合えば、橋梁を渡る列車を見ることができます。

#### 📄 アンケート結果 📄

- ・四季で楽しめそう。
- ・橋梁が周辺の環境と一体となって非常に希な景観を作っている。
- ・階段が長く、高くて怖かったが、風景などは外国人にもっと人気が出ると思った。

## その他のビューポイント

只見線第一橋梁ビューポイント以外にも、只見線第二橋梁やアーチ三橋（兄）弟といった只見線沿線のビューポイント候補地があります。

### 只見線第二橋梁



第一橋梁よりも至近距離で通過する列車を見ることができます。

### アーチ三橋（兄）弟



三男（新宮下橋 国道 252 号）

長男（大谷川橋梁 只見線）

次男（宮下橋 県道小栗山宮下線）

三つのアーチ橋が一つのファインダーに重なって見える国内でも非常に珍しい場所です。長男の大谷川橋梁は、戦前に建造されたにも関わらず耐久性に優れており、現存するコンクリート橋として歴史的価値のある貴重な橋梁です。

#### ④ 第二沼沢発電所（金山町）

昭和57年に運開した最大出力46万kWの発電所です。沼沢湖を上池、只見川（宮下ダム）を下池とし、落差214mを利用して発電と揚水を行っております。



◀ 発電所へは、普段通ることのできない地下トンネルを利用して行きます。

▼ 発電所の概要について、東北電力の職員の方に説明をしていただきました。

施設内を案内していただき、普段見ることのできない貴重な体験をすることができました。

今回の見学では、運良く発電機の起動と停止のタイミングに居合わせることができ、実際に動いている発電機の迫力を間近で味わうことができました。



#### △ アンケート結果 △

- ・ 発電機が動いている様子はとても迫力があつた。
- ・ 水の力の偉大さを感じた。
- ・ 本来入ることのできない場所に入れる優越感があつた。
- ・ 地下トンネルでテンションが上がつた。

📎 第二沼沢発電所は、無料で見学を行うことができます。見学には事前予約が必要となりますので、ご注意ください。

【見学のお問い合わせ】 東北電力(株)会津若松支社総務課  
電話：0242-26-5625

## ✎ 編集後記 ✎

今回の調査では施工中のトンネル、インフラ施設のビューポイントや普段入ることのできない発電所内部を見学しました。

調査結果により、ただインフラ施設を眺めるだけでなく、実際に歩いて体験したり、その施設の歴史的背景等を知ることがインフラ施設の観光資源化には重要な要素であることが確認できました。さらに、普段見ることができない貴重な体験も効果的であることが分かりました。

今回の調査を基に、奥会津地域インフラ施設の観光資源化に取り組んでまいります。

## 土木部メールマガジン登録随時受付中!!!

土木部メールマガジンでは、土木部の取組みや情報を定期的に発信しています。最新号のメール配信を希望の方は、下記により登録をお願いします。

これまでに配信したメールマガジンについては、土木企画課のホームページ（<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41025a/doboku-mm.html>）からご覧いただけます。

メールマガジン（無料）の配信をご希望される方



【土木部メルマガ希望または、解除】

をお書きのうえ下記アドレスまでメール送信して下さい。

[doboku\\_mailmagazine@pref.fukushima.lg.jp](mailto:doboku_mailmagazine@pref.fukushima.lg.jp)

土木企画課(システム担当) 024-521-7886

【まちづくり瓦版 発行元】  
福島県土木部まちづくり推進課

TEL 024-521-7511

FAX 024-521-7956

e-mail [machizukuri@pref.fukushima.lg.jp](mailto:machizukuri@pref.fukushima.lg.jp)

URL <http://www.pref.fukushima.jp/machi/>